
本と彼と私

東雲咲夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

本と彼と私

【Nコード】

N5110P

【作者名】

東雲咲夜

【あらすじ】

本があつて彼がいて、そこに私がいて。

小さな私たちの風景。

部屋に置かれた大きな本棚。きちんと整理されて並べられた本。棚に入りきらない分は、無造作に床に積み上げられている。微かに埃っぽい匂いを感じた。その中でいくつかを手にとって。段ボールに本を詰め込んでいる彼へとたずねる。

「ねえ、この本はもらってもいい？」

好きなものをどうぞ。

そう返事がかえってくる。彼の眼は真剣に本を選んでいる。

私も彼も相当な本の虫。出会った場所は、これ以上ないくらいにふさわしかったと思える。

県立の図書館。相当な数の本が閲覧できる場所で。私は好んでよく通っていた。高校の図書室には満足できるものがなかったから。私は主に和書を好んでいた。日本の古い文化、日本人の考え方……そういった雰囲気がいいから。もちろん図書館には洋書もあって。学校帰りに寄ったその日、なんとなく洋書も読んでみようかと思っていた。言葉が好きなおかげで、英語も本を読めるくらいにはできた。

ただ、いままでほとんど読んだことがなくて。ずらりと並べられた背表紙を前に戸惑ってばかり。

そんなときに。何か探しているんですか？ と声を掛けられたのが——彼で。

迷っていることを話すと、お勧めの物をいくつか選んでくれて。話を聞いている内に、洋書がかなり好きなようで。あまり和書は読まないという。私は選んでもらったお礼に、いくつか和書を勧めてみた。彼はその本を借りていった。

ここで会ったのも何かの縁だから。私たちはお互いが本を読み終えたら、感想でも話そう。そんな約束をして別れた。

和洋折衷。それは好きな本の種類にも当てはまるようで。

お互いが推薦した本を読みあつては、感想を言い合う。最初は図書館……時に喫茶店で。次第に貸したい本がある……とお互いの自宅で。最終的には読みたい本を持ち込んで、どちらかの家で読むようになった。洋書と和書。だんだんと、どちらの本も好きになっていった。本を好きになるように、自然に彼の事も好きになっていた。しばらくはそんな状態だったのだけれど。

大学生である彼の、就職先が見つかったらしい。どうしてもやりたい仕事があつて、必死に探していたのは知っていた。遠方になってしまつから、引越すのだという。遠くに行つたつて、彼が本を好きなのは変わらない。私が彼を好きなのも同じ。彼がどう思っているかは、よくわからないけれど。

『本をぜんぶは持つていけないから。欲しいものがあつたら、あげるよ』

彼からそう電話が来て、その日のうちに私は本をもらいに来た。今日は土曜日で。次の月曜にはもう行つてしまうそうだ。急いでいるのかと聞くと。

「こういうことは、早ければ早いほどいいんだよ」

楽しそうに、いわれてしまった。

ひとしきり荷造りを終えた彼に話しかける。

「次は、いつ会えるんだろうね」

「夏ぐらいになるな。しばらくは、仕事になれないといけないから汗をふきながら、彼はそう言った。その表情は、私の想いなど知らなそうで。

「そう。絶対に、会いにいくからね。また新しい本をもつていつてあげる」

「ありがとう。頼むよ」

微笑む彼の笑顔を焼きつけて、私は自宅へと帰った。

桜が散って、向日葵が背を伸ばすのは早いもので。私は夏休みを利用して、彼のアパートへと向かった。以前よりも彼は日に焼けていて。部屋の中にある本の数は少なかった。きつと忙しくて読む暇がないのだろう。日向の匂いがして、胸が締め付けられた。お茶の準備をしている彼に、私は言った。

「ねえ。前にもらった本、こっちに持ってきてもいい？ 本棚に置かせて」

「別にかまわないけど。読み終わったのか？」

まだ全部は読み終わってない、と答えた。

日に焼けたあなたも好きだけれど、たくさんの本に囲まれたあなたはもつと好きだから。埋もれそうなくらい本があつて、その中であなたが熱心に読んでいて。私はそれを眺めてたり、本を読んだり。ほんの少し、埃っぽい匂いを感じながら。

それが、私とあなたの形だから。

（後書き）

お読みくださりありがとうございました。
さらっと、してみました。

久しぶりに珍しく、平和です。

何か感じていただけたなら、幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5110p/>

本と彼と私

2010年12月15日14時32分発行